

自己実現 自主自立 本物の笑顔のために

# 東の風



平戸市立田平東小学校  
学校便り

No.47

やさしく  
かしこく  
たくましく

平成28年10月26日(水)

文責：園田

## 学校教育目標：心豊かで 自ら学び たくましく生きる子どもの育成

先日の学校便りで、「読書週間」について書きました。読書の際に手にするもの、それは書物、『本』です。「本」という字は、「物事の基本」という意味から転じて、書物を表すようになったそうです。なるほど、そうして考えると、大事な言葉には「本」という字が使われることが多いようです。詩人の相田みつをさんの言葉にも「本の字のつくものはいい 本の字でいこう いつでもどこでも 何をやるにも」というものがありました。「本」がつく言葉、例えば次の様な言葉があります。

「本気」・「根本」・「本当」・「本物」・「本心」・「本音」・「本番」・「本腰」・「本質」・「本性」「本領」「本筋」・「本意」・「本分」・「本望」・「本来」・「本人」・・・などなど。

確かに大事な、重要な意味を含むものが多いように思います。私達が住む、この素晴らしい国、「日本」にも「本」がついていますね。

2学期も中盤に差し掛かります。これからも日々、子ども達一人ひとりを大切に、伸ばし、輝かせるために、教育の「根本」や「本質」を捉え、「本腰」を入れ、「本気」になって、教師としての「本領」を発揮し、日々の教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。

## 『家読（うちどく）』 やってみませんか？

本校では「家族ふれあい読書」という読書の取組をしていることはご存知だと思います。今週、10月23日～30日は10月の「ふれあい読書」の期間としています。

では、『家読（うちどく）』という言葉をご存知でしょうか？ 各地の自治体等でも広く取り組まれ、家庭への働きかけも行なわれていますので、ご存知の方も多いと思います。「家読（うちどく）」とは、「家庭読書」の略で、家族で読書の習慣を共有することです。家族で本を読んでコミュニケーションし、「家族の絆づくり」をすることを目的としています。



基本は、家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話したりすること。

ただし「家読（うちどく）」に決まりはありません。どんなやり方でもOK。難しいルールはいりません。

家族で本を楽しむことが出来れば、それが「家読」です。

- ・家族で同じ本を読む。
- ・家読の日、時間を決めてみんなで読む。
- ・読んだ本の感想をみんなで話し合う。
- ・自分のおすすめの本を教えてあげる。
- ・家族に本を読んであげる・・・などなど

それぞれのご家庭にあった家読スタイルをつくってみてはいかがでしょうか？



同じ本をみんなで読めば、家族の会話もいっそうはずみます。家族としての絆が深まること、間違いなしです。一挙両得、こんなにいいことはなかなかありませんよ。

## 家読で、読みニケーションはじめましょう！

子ども達は、学校で楽しそうに読書に親しんでいます。ご家庭でも、家族ふれあい読書、親子読書、「家読」に積極的に取り組んでいただくと、読書への関心がより一層深まり、習慣化、定着化します。

本は学校ではもちろんのこと、市や町の図書館でも、借りることが出来ます。書店にもあります。また、最近、自宅のパソコンやスマホからインターネットで好きな時に、好きな本を気軽かつ簡単に購入することも出来ますので、書店が近くになくても、わざわざ出かけなくとも、本はより身近なものになっています。

家族の温かさや優しさ、愛情を感じ、親子、家族の絆が深まるひと時にもなります。ぜひ取り組まれてみてはいかがでしょうか？

